

オルビス、“人が集い企業理念も体感できる森”を目指して 社員、関係者が「甲州市・オルビスの森」を整備 2021年の完成へ向け遊歩道や階段を設置

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社（本社：東京都品川区、社長：小林琢磨）は、山梨県甲州市に広がる手付かずの森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトの一環として、11月3日に社員ボランティア及び関係者93名で、約0.3haのエリアの遊歩道づくり等を行いました。



遊歩道の様子



丸太を地中に固定する従業員

今回は、生態系の邪魔をすることなく人と自然とが共生できる里山づくりのため、約0.3haのエリアに丸太を並べ、遊歩道や急斜面に階段をつくる作業を行いました。約80本の丸太は全て「甲州市・オルビスの森」で間伐したスギやヒノキ、マツを利用し、社員同士で協力しながら約150mにわたる歩道に固定。傾斜部分には丸太を並べ階段状にすることで、誰もが歩きやすく安全な遊歩道をつくり上げました。

「甲州市・オルビスの森」では、2002年から継続して社員ボランティアが植林や下草刈り、間伐作業を実施してきましたが、2017年より、里山の活用に向けた整備作業にも着手。2021年の完成へ向け安全に森へ入れる環境づくりの第一歩として、遊歩道づくり等を行いました。

オルビスは1987年の創業以来、通信販売という紙を多く消費する事業活動による地球環境への負荷を常に意識し、環境に配慮した商品開発、サービスを心がけてきました。2002年からは公益財団法人オイスカとの協働により国内外での環境保全活動を支援しており、国内では山梨県における社員参加型の環境ボランティアイベントを毎年開催しています。また、これらの継続的な取り組みに対して、2006年、2014年の2度にわたり山梨県知事より感謝状が授与されています。

「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原の広さ約100ha（東京ドーム約21個分の広さ※）の市有林。公益財団法人オイスカの仲介により、オルビスと甲州市が同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。オルビスは2012年度から植林や下草刈り、2014年より間伐などの整備を行い、人と森とをつなぐ里山として再生させるプロジェクトを推進。2021年までに里山を再生し、2022年以降は人と自然との共生を目指し、地域と連携しながら、「甲州市・オルビスの森」や、そこで採れた間伐材の有効活用に取り組みます。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

オルビスでは環境への取り組みを専用サイトでご紹介しています。
是非こちらもご覧ください。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>

【本件に関するお問い合わせ先】（株）ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
広報担当 Tel 03-3563-5540 / Mail webmaster@po-holdings.co.jp